

12.主要科目の特長及び目標

(1) 幼児教育コース(指定保育士要請施設)

教科科目	科目の特長	科目の目標
保育原理	めまぐるしく変化する保育環境に伴い、保育士の需要が日々増大している。このようなことを踏まえ、保育の意義、保育の目標、保育の歴史、保育の課題について学ぶ。	保育の内容・計画、こどもの安全・健康など、保育の基礎・基本の知識・法律・技術を確実に身につけ、必要な人間性や倫理観も併せて身につける。
社会的養護Ⅰ	社会的養護の現状と保育士の役割について学ぶ。児童福祉施設の具体的な役割の理解を深めながら、保育士としてどのように向き合い、支援することがもとめられるかを学ぶ。	社会的養護の基礎知識を習得する。児童福祉施設の目的を理解し、児童福祉の動向、施策への理解を深める。さらに虐待などの問題への支援についても理解をする。
保育内容演習Ⅱ (人間関係)	生きる力の基礎は、子どもの人間関係や子どもを取り巻く人間関係の中で自らつかみ取ったり、教えられたりすることにより身につけていくが、近年子どもたちを取り巻く人間関係の希薄さ、子ども自身の人間関係作りの弱さ、生きる力の衰退が危惧されている。このような問題に対し、どのように対応すればいいのか人間関係について考えていく。	五領域を理解する。保育内容の人間関係の重要性を理解し、「他の人々と親しみ、支えあって生活するために自立心を育て、人と関わる力を養う」保育ができるよう、人間関係の視点の獲得と共に応用して実践に繋げることができる。
子どもの食と栄養Ⅰ	乳児期から幼児期、学童期、思春期と各発達段階に応じた栄養生理と摂取方法を学び、栄養・食生活の重要性を理解する。幼少期のアレルギー疾患についての専門的な知識を身につける。	小児期の栄養、食生活の重要性を理解して、保育実践に役立つ知識を備える。
保育内容総論	保育所保育指針・教育要領・教育・保育要領に基づく保育の基本と保育内容について理解する。	保育所保育指針を理解し、保育の全体構造と保育内容を理解する。
乳児保育Ⅰ	乳児期の養育者との信頼関係を基盤に、3歳未満児の発達の特徴や道すじを踏まえて「保育のねらいと内容」について具体的な実践を交えて学ぶ。	乳児保育を取り巻く状況や課題・意義・目的を理解し、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容や連携について理解し、実践に活かす。
音楽Ⅰ	楽譜上のリズムや音読の早期上達をはかり、保育現場での即戦力となるよう歌唱も加えていく。人前で弾く・歌うことに慣れ、それぞれがステップアップしていく。	保育者には子どもたちの表現力を、音楽的な面からも指導することが必要とされる「楽譜から音楽を読み取る力」に必要な知識と技能を習得する。
ゼミナールⅠ	少人数の編成でディスカッションを積極的に採り入れ、学生の自発的な参加による双方向性の授業を展開していく。指導教員の下、ゼミ形式で、あるテーマに関する研究発表や議論・講読やボランティア活動などを展開する。	課題発見能力、レポートにまとめる能力、プレゼンテーション能力を養うことを目標とする。
造形Ⅰ	子どもの発達と造形表現の特徴を理解し、子どもが自分の思いを表現し、その楽しさや良さを実感できるような造形表現活動の適切な援助や環境設定ができるようにする。	保育士として造形表現に関する理解を深め、知識や技能を習得する。
情報処理演習Ⅰ	コンピューターおよび情報機器・媒体についての知識を学び、その操作・活用ができるようになると共に文部科学省後援の「文書デザイン検定試験」などの上級検定試験に対応した授業を進める。	社会人として保育園などで働く場合に求められる、コンピューターを活用する能力を習得する。